

経済指標解説

2014年9月5日

主要な経済指標の発表予定と予測

(9/8~9/12)

経済調査部
 松浦大将
 03-3591-1435
 hiromasa.matsuura@mizuho-ri.co.jp

【来週の注目材料】※（ ）内はみずほ総研予想

- 8日 : 4~6月期の実質GDP成長率2次速報（前期比▲2.2%、同年率▲8.6%）
 : 7月の経常収支（4,442億円の黒字）
 : 8月の景気ウォッチャー調査
- 9日 : 7月の第3次産業活動指数（前月比+0.1%、前年比▲1.8%）
 : 8月の消費動向調査
 : 日銀金融政策決定会合議事要旨（8/7・8分）
 : 8月のマネーストック
- 10日 : 8月の国内企業物価指数（前月比±0.0%、前年比+4.1%）
 : 7月の機械受注（船舶・電力を除く民需）（前月比+0.2%、前年比▲2.1%）
- 11日 : 7~9月期の法人企業景気予測調査
- 12日 : 7月の設備稼働率

経常利益は10四半期連続 の前年比増益

1日に発表された4~6月期の法人企業統計では、経常利益が前年比+4.5%（1~3月期同+20.2%）と10四半期連続の増益となった。業種別にみると、製造業は、駆け込み需要の反動が大きかった輸送用機械を中心に落ち込み、同▲7.6%（1~3月期同+5.4%）と7四半期ぶりに減益に転じた。一方、非製造業は同+12.1%（1~3月期同+28.2%）と2桁の増益幅を維持した。子会社からの受取配当金が増加したサービス業（純粋持株会社が含まれる）や、企業広告が増加した情報通信業などが押し上げに寄与した。設備投資（土地を除きソフトウェアを含む）は前年比+3.0%（1~3月期同+7.4%）と、1~3月期に投資が集中した反動などから増加幅は縮小したものの、前年を上回る水準を維持した。製造業は同▲0.8%と小幅に減少したが、非製造業は同+5.0%と卸売業・小売業を中心に堅調に推移した。

新車販売台数は7カ月連続 で減少

同日発表された8月の新車販売台数（登録車・軽自動車の乗用車合計、みずほ総合研究所による季節調整値）は、前月比▲4.5%（7月同▲1.5%）と7カ月連続で減少した。内訳をみると、軽自動車が同▲2.2%（7月同▲10.6%）とマイナスが続くとともに、登録車も同▲5.8%（7月同+4.5%）と減少に転じた。8月は西日本を中心に悪天候が続いたことなどが、前月比マイナス幅の

名目賃金は5カ月連続の増加

拡大につながったようだ。

2日に発表された7月の名目賃金は前年比+2.6%（6月同+1.0%）と伸びが高まった。企業の業績改善や人手不足を受けて、夏季賞与を含む特別給与が同+7.1%（6月同+2.0%）と大幅に増加したことが主因である。また、所定内給与も同+0.7%（6月同+0.2%）と2カ月連続で前年を上回った。2014年入り後からパートタイム労働者数の伸びが鈍化する一方、一般労働者数の増加幅が拡大する傾向にあり、パート比率の上昇に歯止めがかかりつつあることが所定内給与の伸びを高める一因となっている。もっとも、物価調整後の実質賃金（持家の帰属家賃を除く総合消費者物価指数により実質化）は、同▲1.4%（6月同▲3.2%）とマイナス幅は縮小したものの、消費増税に伴う負担増を補うまでには至っていない。

実質GDPは1次速報から下方修正

来週は実質GDP（2次速報）、経常収支などが発表される。

8日に発表される4～6月期の実質GDP（2次速報）は、前期比▲2.2%（年率▲8.6%）と1次速報（前期比▲1.7%、年率▲6.8%）から下方修正されると予測する。設備投資・民間在庫投資・公共投資がいずれも下方修正される見通しである。駆け込み需要の反動を受けて民需が落ち込み、大幅なマイナス成長となる姿は1次速報と同様である。ただし、設備投資の下方修正幅が大きく、パソコンの基本ソフト（OS）のサポート終了や建機等の排ガス規制強化などの影響で1～3月期に投資が集中した反動が、1次速報段階よりも大きかったことを示す結果になるだろう。

経常収支は2カ月ぶりの黒字

同日発表される7月の経常収支は4,442億円の黒字（6月3,991億円の赤字）と予測する。貿易・サービス収支の赤字を第一次所得収支の黒字が上回り、経常収支（原数値）は2カ月ぶりに黒字となる見通しである。ただし、第1次所得収支の黒字が前年同月より縮小し、経常黒字額は前年同月に比べて減少する見込みである。季節調整値ベースでみると経常収支は2カ月ぶりに増加が見込まれるが、依然として小幅の黒字（3,478億円の黒字と予測）にとどまるだろう。

第3次産業活動指数は前月から小幅に上昇

9日に発表される7月の第3次産業活動指数は、前月比+0.1%（6月同▲0.1%）と予測する。卸・小売業が緩やかに持ち直すことなどから、第3次産業活動指数は前月比小幅なプラスに転じる見通しである。

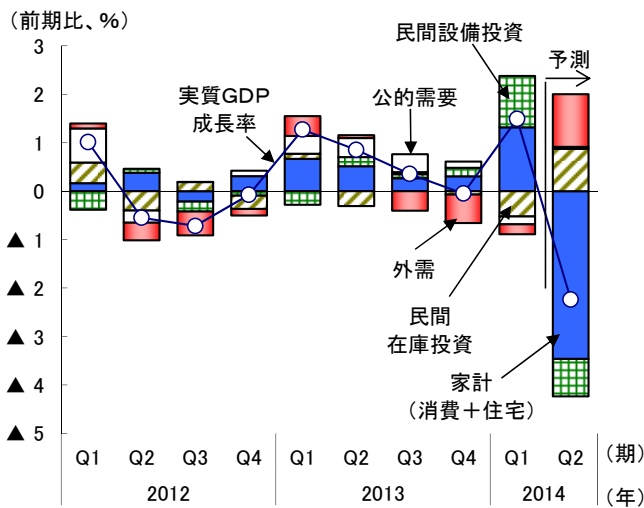
国内企業物価指数は前年比プラス幅が縮小

10日に発表される8月の国内企業物価指数は、前月比±0.0%、前年比+4.1%（7月前月比+0.3%、前年比+4.3%）と予測する。原油価格のピークアウトを背景に、石油・石炭製品や化学製品の前年比上昇幅が縮小し、国内企業物価指数は伸び率が鈍化する見通しである。

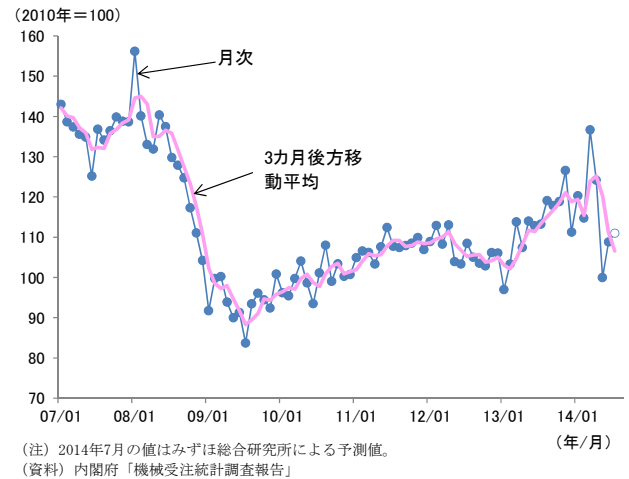
**機械受注は2カ月連続の前
月比プラス**

同日発表される 7 月の機械受注（船舶・電力を除く民需）は、前月比 +0.2%（6 月同+8.8%）と予測する。消費増税後の景気動向に対する警戒感から小幅な増加にとどまるとみられる。

図表 1 実質 GDP 成長率の推移



図表 2 機械受注（船舶・電力を除く民需）の推移



執筆担当～ 松浦大将

予測担当～ 経常収支：山本康雄、実質 GDP 成長率（2 次速報）：徳田秀信、

国内企業物価：風間春香、第 3 次産業活動指数・機械受注統計：坂中弥生

米国主要経済指標（ダイアリー掲載分）：山崎亮

●当レポートは情報提供のみを目的として作成されたものであり、商品の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。

【 来週のダイアリー 】

日付	経済指標等	予想	前回	前々回	
9/5(金)	米 雇用統計(8月)				
	失業率	[6.2%]	6.2%	6.1%	
	非農業部門雇用者数 前月差	[+215千人]	+209千人	+298千人	
	時間当たり賃金(全従業員ベース) 前月比	[+0.2%]	±0.0%	+0.2%	
9/8(月)	日 GDP(4~6月期2次速報) 前期比	[▲2.2%]	4~6月期1次速報 ▲1.7%	1~3月期 +1.5%	
	国際収支(7月速報)	經常収支(前年比) [▲26.0%] 貿易収支(前年比) [▲7,709億円] [-]	▲3,991億円 - ▲5,371億円 -	+5,228億円 ▲7.7% ▲6,759億円 -	
	景気ウォッチャー調査(8月) 現状判断DI	N. A.	51.3	47.7	
	全国企業倒産件数[帝国データ](8月)	N. A.	844件	847件	
	中 貿易収支(8月) 米ドル	+412億 _{ドル}	+473億 _{ドル}	+317億 _{ドル}	
	輸出総額(8月) 前年比	+10.0%	+14.5%	+0.073%	
	輸入総額(8月) 前年比	+3.0%	▲1.6%	+5.5%	
	9/9(火)	日 第3次産業活動指数(7月) 前月比	[+0.1%]	▲0.1%	+0.9%
		マネーストック(8月速報)	M2 前年比 N. A. M3 前年比 N. A. 広義流動性 前年比 N. A.	+3.0% +2.4% +3.1%	+3.0% +2.5% +3.0%
		日銀金融政策決定会合議事要旨(8/7・8分)			
	30年利付国債入札				
	消費動向調査(8月) 消費者態度指数	N. A.	41.5	41.1	
	米 3年国債入札				
9/10(水)	日 機械受注(7月) 前月比	[+0.2%]	+8.8%	▲19.5%	
	[船舶・電力を除く民需] 前年比	[▲2.1%]	▲3.0%	▲14.3%	
	国内企業物価指数(8月) 前月比	[±0.0%]	+0.3%	+0.2%	
	前年比	[+4.1%]	+4.3%	+4.6%	
	米 10年国債入札				
9/11(木)	日 法人企業景気予測調査(7~9月期)				
	5年利付国債入札				
	中 消費者物価指数(8月) 前年比	+2.2%	+2.3%	+2.3%	
	米 失業保険新規申請件数(~9/6)	[300千人]	302千人	298千人	
	30年国債入札				
	尼 金融政策決定会合				
	比 金融政策決定会合				
9/12(金)	日 設備稼働率(7月)	N. A.	98.9	102.3	
	黒田日銀総裁講演(政策研究大学院大学 学位記授与式)				
	米 小売売上高(8月) 前月比	[+0.8%]	±0.0%	+0.2%	
	ミシガン大消費者信頼感指数(9月速報)	[83.0]	82.5	81.8	
	韓 金融政策決定会合				

予想：[]はみずほ総合研究所予想、それ以外はコンセンサス(Bloomberg等)。予定は変更になる可能性があります。
日：日本、米：米国、中：中国、韓：韓国、尼：インドネシア、比：フィリピン